

弥生人のDNA分析

鳥取・青谷上寺地遺跡

国立科学
博物館など

日本人ルーツ解明期待

国史跡青谷上寺地遺跡（鳥取市青谷町青谷）で見つかった2〜3世紀（弥生時代後期）の人骨のDNAを最新技術で分析する調査を、国立科学博物館や国立歴史民俗博物館、鳥取県埋蔵文化財センターなどが始めた。同遺跡からは殺傷痕のあるものなど100体以上の人骨が出土しており、調査はこのうち40点を活用する。また、まった数の弥生人のDNAを詳しく分析するのは初めて。関係者は「弥生人の遺伝的特徴や日本人の成り立ちの解明につなげたい」としている。（渡辺暁子）



青谷上寺地遺跡から出土し、最新の技術を用いたDNAの分析が行われる人骨（鳥取県埋蔵文化財センター提供）

調査は、日本列島には10年以上前に分析さ
居住していた人類集団
の起源をゲノムや言語
学、考古学研究の観点
から調査する「ヤポネ
シア人の総合的研究」
の一環。同センターに
よると、同遺跡の人骨
と、古代人のDNA分

は10年以上前に分析さ
れたことがあるが、進
歩した技術を用いて、
より詳しい解明につな
げられる。
国立科学博物館の篠
田謙一副館長による
と、古代人のDNA分

青谷上寺地遺跡 鳥取市で見つ
かった弥生時代の集落遺跡。湿地
のため有機物が腐敗せずに残り、
弥生人の脳や殺傷痕のある人骨な
どが見つかったほか、木製の琴や
食器、建築部材が大量に出土した。

くいや板を使った護岸工事の跡な
ども確認され地下の弥生博物館
とも呼ばれている。当時は貴重品
だった銅鏡や鉄製品なども見つ
かり、日本海側の交易や外交渉の
拠点だったとみられる。

析は2010年頃から
核DNAの分析が可能
になったことで質的に
大きく変化。ゲノム分
析で、髪や肌の色など
の身体的特徴、かかり
やすかった病気や血液
型が分かる。今回の調
査で、同遺跡の弥生人
がどんな遺伝的特徴を
持つのか知ることが期
待できる。

また、篠田副館長に
よると、日本人は在来
の縄文人と北部九州に
侵入した渡来系の弥生
人の混血でできたと考
えられているが、その
混合の様子については

全く分かっていない。
分析を進めることで、
日本人の成り立ちの解
明につながる可能性が
ある。
同遺跡は、海の交易
拠点だったことが出土
物から明らかになって
いる。同センターの浜
田竜彦係長は「交流拠
点を別の角度から裏付
ける分析になるので
は」と展望。調査成果
を、現在検討が進めら
れている史跡公園整備
にも生かしたいとす
る。
同遺跡展示館の河根
裕二館長は「より具体
的な地域のストーリー
ー、魅力が増えるので
はないか。地域の盛り
上がりや活性化につな
がる」と期待する。